

インマヌエル中目黒キリスト教会

2016年2月21日聖日礼拝

使徒の働き連講(71)

「アグリッパ王への弁明」

使徒の働き26章12節-32節

竿代照夫牧師

聖書朗読 新約聖書

使徒の働き 26章 12節 ~ 32節

聖書本文は新改訳聖書第三版
(©新日本聖書刊行会) を使用しています
第二版の聖書は 259 ページ
第三版の聖書は 282 ページ

12 このようにして、私は祭司長たちから
権限と委任を受けて、ダマスコへ出か
けて行きますと、

13 その途中、正午ごろ、王よ、私は天か
らの光を見ました。それは太陽よりも
明るく輝いて、私と同行者たちとの回
りを照らしたのです。

14 私たちはみな地に倒れましたが、そのとき声があって、ヘブル語で私にこう言うのが聞こえました。『サウロ、サウロ。なぜわたしを迫害するのか。とげのついた棒をけるのは、あなたにとって痛いことだ。』

15 私が『主よ。あなたはどなたですか』と言いますと、主がこう言われました。『わたしは、あなたが迫害しているイエスである。』

- 16 起き上がって、自分の足で立ちなさい。
わたしがあなたに現れたのは、あなたが見たこと、また、これから後わたしがあなたに現れて示そうとすることについて、あなたを奉仕者、また証人に任命するためである。
- 17 わたしは、この民と異邦人との中からあなたを救い出し、彼らのところに遣わす。
- 18 それは彼らの目を開いて、暗やみから光に、サタンの支配から神に立ち返らせ、わたしを信じる信仰によって、

彼らに罪の赦しを得させ、聖なるものとされた人々の中にあって御国を受け継がせるためである。』

- 19 こういうわけで、アグリッパ王よ、私は、この天からの啓示にそむかず、
- 20 ダマスコにいる人々をはじめエルサレムにいる人々に、またユダヤの全地方に、さらに異邦人にまで、悔い改めて神に立ち返り、悔い改めにふさわしい行いをするようにと宣べ伝えて来たのです。

- 21 そのために、ユダヤ人たちは私を宮の中で捕らえ、殺そうとしたのです。
- 22 こうして、私はこの日に至るまで神の助けを受け、堅く立って、小さい者にも大きい者にもあかしをしているのです。そして、預言者たちやモーセが、後に起こるはずだと語ったこと以外は何も話しませんでした。
- 23 すなわち、キリストは苦しみを受けること、また、死者の中からの復活によって、この民と異邦人とに最初に光を宣べ伝える、ということです。」

- 24 パウロがこのように弁明していると、フェストが大声で、「気が狂っているぞ。パウロ。博学があなたの気を狂わせている」と言った。
- 25 するとパウロは次のように言った。「フェスト閣下。気は狂っておりません。私は、まじめな真理のことばを話しています。
- 26 王はこれらのことをよく知っておられるので、王に対して私は率直に申し上げているのです。これらのことは片隅で起こった出来事ではありませんから、

そのうちの一つでも王の目に留まらなかったものはないと信じます。

27 アグリッパ王。あなたは預言者を信じておられますか。もちろん信じておられると思います。」

28 するとアグリッパはパウロに、「あなたは、わずかなことばで、私をキリスト者にしようとしている」と言った。

29 パウロはこう答えた。「ことばが少なかりうと、多かりうと、私が神に願うことは、あなたばかりでなく、きょう私の話を聞いている人がみな、

この鎖は別として、私のようになってくださることで。」

30 ここで王と総督とベルニケ、および同席の人々が立ち上がった。

31 彼らは退場してから、互いに話し合っ
て言った。「あの人は、死や投獄に相当することは何もしていない。」

32 またアグリッパはフェストに、「この人は、もしカイザルに上訴しなかったら、釈放されたであろうに」と言った。

説教

使徒の働き連講（71）

「アグリッパ王への弁明」

使徒の働き

26章12節-32節

竿代照夫牧師

主テキスト

「ことばが少なかるうと、多かるうと、私が神に願うことは、あなたばかりでなく、きょう私の話を聞いている人がみな、この鎖は別として、私のようになったださることです。」

(使徒の働き 26 : 29)

はじめに:

「とげつき棒を蹴るのは痛い」という
言葉の意味

1. 復活の主との出会い(12~18節)

・天からの光:眩いばかりの光をサウロ
一行が見る

・天からの声 :「何故私を迫害する？」
= 教会とキリストは一体

・天からの声 :「痛い」
= 迫害行為はサウロの
良心の呵責に

・天からの声 : 「証人となりなさい」

1) 何を？

イエスに出会ったこと、その後の啓示

2) 誰に？

イスラエルと異邦人

3) 目的は？

信仰による開眼、信仰による回心、

信仰による解放、信仰による赦し、

信仰による相続

= > これらは万人に約束されている

2. 啓示に従った生涯(19 ~ 23節)

- ・パウロの宣教活動
- ・そのための迫害: インパクトの大きさがユダヤ人の反発を生んだ
- ・福音の要約: 聖書が予告したものの
(キリストの苦難と死と復活)

3. フェスト総督による中断(24 ~ 26節)

- ・フェストは、パウロの狂気と見る
- ・パウロの反論:
自説は、客観的な事実に基づく

4 . アグリッパ王への挑戦 (27 ~ 29節)

- ・ アグリッパ王への質問:
「キリストを信じるのは自然でしょう？」
- ・ アグリッパ王の防衛:
「私は簡単に説得されない」
- ・パウロの大胆な証し:
「私のようなキリスト者になって
いただきたい」
- ・ 「恵みによって私のように」と言える
者になろう
- ・ 「鎖以外」とのユーモア

5 . 王と総督のコメント(30 ~ 31節)

- ・お偉方の退席

- ・彼らのコメント:

パウロは無罪

しかし、上訴は失敗

おわりに

(謙りと誇りをもって)

「自分のように！」と証ししよう